



令和元年度川俣町立福田小学校学校だより

しらさぎKids NO.64

令和2年1月27日

文責:校長 大内 雅之

令和2年度の学校経営に向けて ～こんな学校をつくりたい②～

前号の続きになります。ご意見等あれば何なりとお寄せください。

令和2年度 川俣町立福田小学校 学校経営方針

【令和元年度の反省（総括）】

R元年度は、福田小学校の特色・強みである「地域とともにある学校」を土台に据え、「ふるさとを愛し、はつらつとした子どもの育成」を重点目標に設定し、知・徳・体・それぞれの領域からアプローチをかけてきた。教職員の努力・家庭／地域の協力には頭の下がる思いであり、子どもたちの変容から着実に成果が上がっていることを実感している。この、学校運営の構図・全体的な方向性については間違っていないと考えている。しかし、重点実践事項として取り組んできたことのすべてが求めている水準に達しているかといえば、まだまだ発展途上にあるものもあると考える。

また、新学習指導要領改訂の趣旨を運営ビジョンにどのように反映させていくかという視点が欠けていたように思う。従来の「知」「徳」「体」という領域別の考え方にあわせて、新学習指導要領で大事にする教科領域を横断する資質・能力「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性」というの視点から実践事項を捉え直すことが必要ではなかったかと反省している。次年度に向けても、重点目標（→教育目標）とのつながりを十分意識し、目の前の子どもたちに対して様々な取り組みの中でも「何が大事なのか」そして、それは「何のために行うのか」さらに、実際には「具体的に何をするのか」等をより明確にして取り組んでいきたい。

【令和2年度重点目標】

■重点目標（案） ふるさとを愛し、はつらつとした 子どもの育成【継続】

①「ふるさと」

東日本大震災・原子力発電所事故から丸9年を迎えようとしている今の状況、子どもたちの成長過程・受けてきた教育を考えると、震災前と比べて、明らかに自然体験が少なくなっている。これだけの恵まれた自然に囲まれている福田だからこそ、自然体験の減少はより顕著なのかもしれない。それに伴い、真の「ふるさと」への思いも醸成されてきたのだろうか疑問に思えてしまう。確かに生活科・総合的な学習の時間でのふるさと学習を重視した取組でふるさとへの思いはかなり醸成されてはいるが、まだまだやれることはあるし、やらなければならないと考える。福田を、川俣を、福島をふるさととして誇りをもち、これからずっと心のよりどころとして生きていくことができるような教育を展開していかなければと思う。米作り・畑作りはもちろん、地域の産業・人との直接的な関わりを通して「ふるさと」への思いをしっかりと作り上げていかなければならないと考える。ここでいう「ふるさと」は自然環境や体験だけではない。同じ土地で暮らす「人」とのつながりも「ふるさと」と考えている。今やらなければ、ふるさとへの思いは薄れるばかりになってしまう。まして、R4年度に学校再編が迫る中、R2～R3は特に「ふるさと 福田」の思いを育まなければならない。

②「はつらつさ」

～はつらつさのイメージ～ ※類語に出てくるようなイメージの子どもを目指している

※ weblio 類語辞典 (<https://thesaurus.weblio.jp/>) より 「はつらつさ」

【意義素】人の性質が活気に溢れているさま

（類語）・ 威勢のよい

【意義素】生き生きとしていて、元気さが感じさせられるさま

(類語)・疾走感溢れる・躍動感みなぎる・躍動感溢れる・躍動感のある・弾けるような
・飛鳥のような・キビキビした・生命感があふれる・エネルギッシュな

【意義素】活力や生命力が感じられるさま

(類語)・イキのいい・活発な・活動的な・活力にあふれた・生气溢れる・生命力のある
・バイタリティのある・元気な・生き生きとした・張りがある・若々しい
・躍動的な・フレッシュな・ピチピチした・健康的な・色鮮やかな・明るい
・のびのびとした・威勢のいい・弾けるような

【意義素】物事を行う意欲に溢れているさま

(類語)・気合の入った・意志の強い・意欲の高い・気鋭の・貪欲な・意欲的な
・心意気のある・やる気に満ちた・貪るように・志が高い・意欲に溢れた
・気概のある・覇気がある・氣勢のある・根性がある・積極的・前向きな

福田の子どもたちは大変まじめで、素直で言われたことをしっかりと行おうとする「いい子」が多い印象がある。やさしさも穏やかさあり大きな生徒指導上の問題もほとんど起きない。その要因になっている落ち着いた地域性、3世代同居のよさなどはこれからもしくはばらくは継続していくものと予想され、子どものよさも大きく変わることはないように思われる。この継続こそ大事にしなくてはならない。しかし、その一方で、どこことなくこじんまりとまとまり、自己主張や社会性、心の強さ、等は物足りなく感じてしまう。

もっと広い社会を知り、もっと広く人と関わり、根拠のない自信（自己肯定感）に裏打ちされながら、挑戦と失敗を繰り返すこと（レジリエンス）で子どもたちの潜在能力はもっと開花していくのではないかと思えるのである。自分の殻を破り続け、一回り、また一回りと成長を続けていく意欲溢れる子どもの姿を「はつらつさ」と表現した。

今年度の「たくましさ」を土台にしながら、さらに「元気・明るさ」をプラスした態度「はつらつさ」こそ、今の福田の子どもたちに必要な資質ではないかと思う。はじける笑顔、思い切りの自己表現、力の出し惜しみをしない活動、ありあまるパワーでぶつかってくる姿、何があってもけろっと立ち上がってくる強さ・・・楽しみにしたい。そのためには、子どもたちが実体験を通して学んでいけるように意図的な活動を仕組んでいく必要がある。（これまでに経験のないような突きぬけた活動、自主的自立的活動、異学年活動、様々な交流等）社会の中で生きるコミュニケーション能力も育成されると思われる。

【令和2年度に特に意識すべきこと】

○ 新学習指導要領への対応（改訂の趣旨・内容・時数）

- ・ 資質・能力の育成
- ・ 社会に開かれた教育課程
- ・ カリキュラムマネジメント
- ・ 外国語活動・外国語科
- ・ プログラミング教育
- ・ 主体的、対話的で深い学び

○ R4学校再編を意識した取り組みの計画・実施

- ・ 福田小閉校、町で1つの学校になることに 向けて
 - (内) 福田地区・福田小の歴史の振り返り
 - 記念行事（活動）にむけて（保護者・地域との連携）
 - 思い出企画
 - R4からの活動計画（試行） 運動会／地区文化祭 等
 - (外) 他校との交流活動（一緒にできる 一緒の方がいいものを）

保護者・地域の皆さんの声 お待ちしています。

----- 切 り 取 り 線 -----